



平成29年3月期 第2四半期(4-9月期)
決算短信補足説明資料



平成28年11月1日
寿スピリッツ株式会社
(コード番号:2222 東証第一部)
問合せ先 取締役経営企画部 部長 松本真司
TEL:0859(22)7477

記載金額は、表示単位未満を切り捨て
比率は、千円単位の金額をもとに計算

1. 業績ハイライト

第2四半期(4-9)累計業績	
売上高	14,801百万円(前年同期比+22.2%) 経常利益 1,471百万円(同+12.7%)
株式会社フランセ(注)影響除く	売上高 13,310百万円(同+9.9%) 経常利益 1,699百万円(同+30.1%)
首都圏展開の推進、インバウンド対策の強化など重点施策の遂行により、 経常利益は、フランセの季節変動によるマイナス影響を吸収し、前年同期に続き最高益を更新。	
(注)株式会社フランセは、平成28年1月に株式取得により連結子会社となり、同年2月より連結の範囲に含めております。	

2. 四半期業績(対前年同期比)

売上総利益率が、対前年同期比 0.8ポイント増加

(単位:百万円、%)

	前第2四半期 (H27.4-9月)		当第2四半期 (H28.4-9月)		対前年同期	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	12,110	—	14,801	—	2,690	22.2
売上総利益	6,536	54.0	8,109	54.8	1,573	24.1
販売管理費	5,255	43.4	6,656	45.0	1,401	26.7
営業利益	1,280	10.6	1,452	9.8	172	13.4
経常利益	1,305	10.8	1,471	9.9	165	12.7
親会社株主に帰属する四半期純利益	966	8.0	862	5.8	△103	△10.7
EPS(円) (注)3	31.05		27.72		△3.33	

(注)1. 詳細は、第2四半期決算短信 2ページ「連結経営成績に関する定性的情報」をご参照下さい。

- 親会社株主に帰属する四半期純利益の減益要因は、前年同期は、税務上の繰越欠損金にかかる繰延税金資産の追加計上により税金費用が一時的に低かったため、当第2四半期の税金負担が前年同期に比べて増加したことによるもの。
- 当社は、平成28年4月1日付で普通株式1株に付3株の株式分割を行っており、EPSは、前期期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出しております。

3. セグメント別の業績

シュクレイが、販売好調により躍進/寿製菓・但馬寿 製造ライン稼働率向上などにより利益率改善

(単位:百万円、%)

	売上高				営業利益		
	前第2Q	当第2Q	増減額	増減率	前第2Q	当第2Q	増減額
ケイシイシイ	3,899	4,263	364	9.3	352	423	71
寿製菓・但馬寿	4,590	4,948	357	7.8	409	634	225
販売子会社	2,468	2,504	36	1.5	174	180	5
シュクレイ	1,780	2,430	649	36.5	185	307	122
九十九島グループ	1,694	1,611	△82	△4.9	49	△19	△68
フランセ (注)2	—	1,490	1,490	—	—	△229	△229
その他 (注)3	101	112	10	10.8	△28	△38	△10
セグメント計	14,535	17,362	2,826	19.4	1,143	1,258	115
(調整額)	△2,424	△2,560	△135	5.6	137	194	56
合計	12,110	14,801	2,690	22.2	1,280	1,452	172

(注)1. 詳細は、第2四半期決算短信2ページ「連結経営成績に関する定性的情報」をご参照下さい。

- フランセは、事業の特性による季節的な変動により、上半期の業績は下半期の比べ著しく低調な傾向にあります。
- その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

4. 四半期業績の推移

売上高・営業利益・経常利益 6四半期連続で増収・増益

(単位:百万円、%)

	27年3月期		28年3月期				29年3月期	
	3Q(10-12)	4Q(1-3)	1Q(4-6)	2Q(7-9)	3Q(10-12)	4Q(1-3)	1Q(4-6)	2Q(7-9)
売上高	6,274	5,801	5,542	6,568	6,967	7,534	6,724	8,076
(増減率)	△ 0.5	△ 0.3	10.8	11.5	11.0	29.9	21.3	23.0
営業利益	866	455	349	930	1,148	848	372	1,079
(増減率)	△ 11.1	△ 5.2	73.4	82.3	32.6	86.3	6.6	16.0
経常利益	877	471	367	938	1,157	862	382	1,088
(増減率)	△ 10.3	△ 3.0	78.6	81.9	32.0	83.1	4.1	16.0

5. 四半期業績(第2四半期累計 期初予想対比)

売上面・利益面ともに期初予想を上回る

(単位:百万円、%)

	期初予想	実績	増減額	増減率
売上高	14,380	14,801	421	2.9
営業利益	1,220	1,452	232	19.1
経常利益	1,230	1,471	241	19.6
親会社株主に帰属する四半期純利益	710	862	152	21.5

(注) 当初予想は、平成28年5月12日付公表数値

6. 通期業績予想

通期業績予想は、当初予想から変更いたしておりません。

(注) 29年3月期予想欄の上期金額は、実績値

29年3月期予想下期欄の数値は、通期予想－上期実績

(単位:百万円、%)

		28年3月期 実績	29年3月期 予想	対前期 増減額	対前期 増減比
売上高	上期	12,110	14,801	2,690	22.2
	下期	14,501	16,568	2,066	14.3
	通期	26,612	31,370	4,757	17.9
売上総利益	上期	6,536	8,109	1,573	24.1
	下期	8,164	9,300	1,135	13.9
	通期	14,701	17,410	2,708	18.4
(売上総利益率)	上期	54.0	54.8	0.8	—
	下期	56.3	56.1	△ 0.2	—
	通期	55.2	55.5	0.3	—
販売管理費	上期	5,255	6,656	1,401	26.7
	下期	6,168	7,073	904	14.7
	通期	11,424	13,730	2,305	20.2
(売上高販管費比率)	上期	43.4	45.0	1.6	—
	下期	42.5	42.7	0.2	—
	通期	42.9	43.8	0.8	—
営業利益	上期	1,280	1,452	172	13.4
	下期	1,996	2,227	230	11.6
	通期	3,276	3,680	403	12.3
経常利益	上期	1,305	1,471	165	12.7
	下期	2,019	2,228	208	10.3
	通期	3,325	3,700	374	11.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	上期	966	862	△ 103	△ 10.7
	下期	1,339	1,547	208	15.5
	通期	2,305	2,410	104	4.5
EPS(円)	通期	74.08	77.44	(注) 1	
1株当たり配当金(円)	通期	20.00	25.00	(注) 1. 2	
設備投資額(百万円)	通期	797	1,100		
減価償却費(百万円)	通期	735	850		

- (注)1. 平成28年4月1日付で、普通株式1株につき3株の割合をもって株式分割を実施しております。28年3月期のEPS及び1株当たり配当金は、期首に当該分割が行われたと仮定して算出してあります
2. 1株当たりの配当金予想は、分割前に遡及修正して換算すると1株当たり75円となり、28年3月期に対し15円の増配予想であります。

7. セグメント別の通期業績予想

通期業績予想は、当初予想から変更いたしておりません。

(単位:百万円、%)

	売上高				営業利益		
	28年3月期 実績	29年3月期 予想	増減額	増減率	28年3月期 実績	29年3月期 予想	増減額
ケイシイシイ	9,094	9,700	605	6.7	1,289	1,430	140
寿製菓・但馬寿	8,866	9,460	593	6.7	671	722	50
販売子会社	4,867	5,140	272	5.6	329	395	65
シュクレイ	3,817	4,380	562	14.7	435	480	44
九十九島グループ	3,553	3,590	36	1.0	85	62	△23
フランセ (注)	917	4,100	3,182	347.1	129	112	△17
その他	226	310	83	37.2	△44	△64	△19
セグメント計	31,344	36,680	5,335	17.0	2,896	3,137	240
調整額	△4,732	△5,310	△578	12.2	380	543	162
合計	26,612	31,370	4,757	17.9	3,276	3,680	403

(注) フランセの28年3月期実績は、連結の範囲に含めた平成28年2月から3月までの2ヶ月間が計上されております。

以上

注意事項

業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。